

「加熱式たばこ等の安全対策検討会」

（平成30年度第2回）【議事録】

1 開催日時

平成30年10月4日（木）10:00～12:00

2 開催場所

東京都港区三田2丁目1番地8号

三田共用会議所 3階 第3特別会議室

3 出席者（敬称略、順不同）

関澤座長、松山座長代理、島沢委員、関委員、武田委員、竹田委員、千葉委員、
谷山委員、塩谷委員、小川委員

4 配付資料

資料1 配席図

資料2 たばこ火災の実態分析（季節変化）

資料3 事業者提出資料等に基づく加熱式たばこの安全装置等

資料3-1 フィリップモリスジャパン合同会社提供資料

資料3-2 日本たばこ産業株式会社提供資料

資料3-3 ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン合同会社提供資料

資料4 比較実験内容の紹介

資料5 危険物施設における加熱式たばこの取扱い等について

参考資料1 第1回議事要旨

参考資料2 加熱式たばこ検証実験実施概要説明書

5 議事

議事概要については、以下のとおり。

（1）議事1 たばこ火災の実態分析（季節変化）について

資料2により事務局から説明が行われた。

【座長】たばこ火災は過去10年で明らかに減少しているのですが、これはたばこ火災だ

けが減少しているのでしょうか、それとも住宅火災全般で同様に減っているのでしょうか。たばこ火災だけが減っているのであれば、たばこに何か減少要因があるかも知れません。

【事務局】たばこ火災に限らず住宅火災全般で減少傾向にあります。最終の検討会では、傾向がわかるように実態分析の資料の中に追加してお示しします。

【委員】たばこ火災には季節ごとに増減がありますが、年間を通じて喫煙本数が変わらないと考えると、環境、具体的には湿度が関係するのではないかと考えますがいかがでしょうか。室内環境が影響するかと思うのですがそのあたりをもう少し詳しく調べられたら良いと思います。

【座長】先ほどの住宅火災全般の資料とあわせて調べてください。

(4) 議事2 事業者提出資料に基づく加熱式たばこの安全装置等について

資料3、3-1、3-2、3-3により事務局から説明が行われた。

【委員】機器の有効期限は全て1年間ですが、廃棄はどの様にすれば良いですか。

【オブザーバー1】各自治体によりごみの取扱いとは異なるため、各自治体によります。

【オブザーバー2】各自治体に従い処分をお願いしています。

【座長】使用者が自治体のルールに従ってくれば良いのですが、適切に処分してくれないことも考えられるかと思うのですがいかがでしょうか。

【委員】各自治体による、と言われても消費者にはわかりにくいところがあります。明確にきちんと処分できるような体制の普及啓発をお願いします。

【オブザーバー1】リサイクルボックスを設けることなどには取り組んでおりますが、まだまだ知られていないのかも知れません。社内でも検討していきたいと思います。

【オブザーバー2】リサイクルプログラムについて検討していきたいと思います。

【座長】経年劣化について、保証期間というのは、機能が正常に使える期間だと思うのですが、その期間以降も使い続けた場合、安全性に影響はないのでしょうか。バッテリー性能が弱まることで、リスクが高まることはないのでしょうか。

【事務局】バッテリー性能が弱まり、吸う機能に支障が出ると聞いています。

【オブザーバー1】1年を超えるとバッテリー性能が落ち、単純に使える期間が短くなります。安全性に変わりはありません。

【オブザーバー2】同じくバッテリー性能が落ち、使える期間が短くなるということのみです。充

放電を何度も繰り返す機器になるため、充放電の試験も行っておりますが異常なことを確認しています。

【委員】いずれの製品も厳密に温度コントロールしているかと思うのですが、例えばPloomTECHはヒーター温度が250度から290度になるよう設計とありますが、この機器には温度を検知するようなシステムが多分なくて、どの程度の電流、電圧でこのような温度になる、と電氣的にコントロールしているということでしょうか。一方で、IQOSは最高温度が350度以下になるように電子制御とありますが、この場合は温度を監視しているかと思うのですが、どの様に計測しているのか、メカニズムを教えてもらえないでしょうか。計測位置がズレたりすると、何かしらの不具合が生じたりもするのではないかと思います。

【オブザーバー1】PloomTECHについては、委員のご理解のとおりで、温度自体は監視していません。

【オブザーバー2】IQOSについては加熱ブレードで温度を計測しております。加熱ブレードの表面全てがセンサーとなっており、1秒に1,000回程度計測し、不具合があればシャットダウンするように設計してあります。

(5) 議事3 加熱式たばこと紙巻たばこの比較実験について

資料4により事務局から説明が行われた。

【座長】これらの実験条件は過去に参考事例があるのでしょうか。

【事務局】数年前にRIPたばこ（低延焼性たばこ）について消防庁や全国の消防本部が検討していた際に行われた実験を参考にしています。

【オブザーバー】サーモグラフィーカメラの条件について確認させてください。サーモグラフィーカメラは計測した温度が画像として現れますが、どのような材質が使われているか、という条件が重要です。加熱式たばこはいろいろ異なる素材が使われており、その材質により反射が変わってきます。

【事務局】サーモグラフィーカメラは材質や色などによってイメージとして示される画像に誤差があることは承知しています。

【座長】試行的に計測してみて、どのように計測すれば良いか検討してください。

【委員】サーモグラフィーカメラは視覚的に分かりやすいですが、熱電対でも温度を計

測しているの、そちらを正としてデータを示されたら良いと思います。

【オブザーバー】④灰皿火災実験で、未使用の加熱式たばこのカートリッジに燃焼している紙巻たばこを投入していますが、比較するというのであれば、未使用の紙巻たばこに燃焼している紙巻たばこを投入するという実験も必要ではないでしょうか。

【座長】時間や予算などの制約はあるかと思いますが、実験に加えられるか検討してください。

【事務局】可能な限り対応したいと思います。

【委員】①ふとんのくん焼実験ですが、イメージ図では掛布団と敷布団の間に入っているように見えますが、実際の実験では布団の上に置くことになっているようです。もし厳しい条件で実験をするのであれば、掛布団があった方が良いのではないかと思いますでしょうか。

【事務局】掛布団についても対応できるか、検討させていただきたいと思います。

【オブザーバー】紙巻たばこと加熱式たばこを比較する実験をするのであれば、換気をして酸素供給を行うような、紙巻たばこがもっと燃えやすい状況を作ることも考えられます。

【委員】換気の話が出ましたが、「紙巻たばこは燃えるが加熱式たばこは燃えない」という比較ができれば良いのでそのあたりは工夫すれば良いのではないのでしょうか。また、サーモグラフィについては、あくまで温度の分布を見るものと理解しましたが、熱電対で計測する位置などについて、各たばこ事業者と情報交換して、適切な計測となるように配慮してください。

【座長】実験については、本日の意見を可能な範囲で反映させながら実施していただきたいと思います。

(6) 議事4 危険物施設における加熱式たばこの取扱い等について

資料5により事務局から説明が行われた。

【座長】オブザーバーに伺いたいのですが、日本以外の国で危険物施設における加熱式たばこの取扱いはどの様になっているか、ご存じであれば教えてください。

【オブザーバー1】海外の状況については手元に資料がないためわかりませんが、方向性として申し上げますと、機器が安全なものであったとしても危険な場所で使うべきではないと考えます。

【オブザーバー2】方向性は同じです。危険な場所では使用すべきではないと考えており、日本以外でも同様に対応しています。

【座長】オブザーバーに伺いたいのですが、危険物施設に限らず、加熱式たばこが原因で火災などになった事例は把握していますか。

【オブザーバー1】IQOSが火災の原因となった事例はありません。

【オブザーバー2】PloomTECHについても同じです。

【事務局】オブザーバーから発言いただいたように、本検討会では危険な場所では使うべきではない、という方向で検討を進めてまいりたいと思います。

（7）議事5 その他

【委員】危険物施設だけでなく、消防法令の中で喫煙として規制している部分があります。今回の検討を元に、この規制のどこを解除し、どこを引き続き規制していくのか整理していただきたいと考えます。

【委員】メンテナンスについて、不要の機器と良い味わいにするために清掃するものがあることがわかりましたが、メンテナンスをしなかった場合に火災の危険性はどのようになるのでしょうか。

【オブザーバー】メンテナンスをしないと味が悪くなります。安全には影響はありません。